

S o p h i a ～卒業式号～



道の終わりの歩き方

さてはて、気づいたらこんなところまで来ていた。なんともはやいものだ。歩いている時には気づかなかった。なんだ、こんなにも容易に来てしまえるところだったのか、ここは。

そもその始まりは憧れだった。この道を歩くこと自体に憧れていた。ところがどうだ。歩いてみればその道のりは、遠くから見ていただけじゃ分からなかった。険しい山も谷もあるところだった。

運よくこの道をよく知っている人と出会うことができた。ものをよく知っている人だったので、「先生」と呼んでいた。先生はいつも私の少し前を歩き、いろいろな話をしてくれた。季節が巡ると、いつも私のような者がこの道を通りたいと言ってきて、今まで何人も送り届けてきたという。私の他にもこの道を通る人は多くいて、時々すれ違ったりするが、ほとんどの人が私にとっての「先生」のような道案内の人と一緒にいた。恐そうな道案内もいたが、優しくなものもいたし、てきぱき無駄なく指示するような人もいれば、一緒に考えてくれるものもあった。かくいう私の「先生」は、あんがい投げやりで、私がこうしたいと言えば、やってみればいいというし、やりたくないといえば、やらなくていいという。しかし、じゃあやらないというと、今までやってきた者たちがいかに楽しんでたかとか、自分もやったことがあるが結構楽しかったとか、とにかく何でも楽しめるというおもしろおかしく話をするので、なんだかこっちももったいなくなってしまう、結局やっているという、そんな道案内であった。

やりたくなかったものをやってさぞ嫌な思いをしたらと思うかもしれないが、果たしてそんなことがなかった。なんだかんだいって、先生の言っていた通り、やってみるとなんでも面白かった。今思えば不思議なことであるが、よくもまああんなにもこの道を通る中でいろんなことが降ってわいてきたものだ。そして今思えばそのいろんなことは実はつながっていて、私の中の足りない部分を補うように、私の中の原石を磨けるように、ちょうどよい時にちょうどよい重さでやってきていた。その時の気分で物事を判断してしまいがちな自分であったが、先生の言っていたように、今ではやってみて良かったと思うことばかりなのである。

それからこの道のりのなかでよい出会いがもう一つあった。この道を通る多くの人たちのなかで、なんとなくいつも同じときに休み、同じときに降ってわいたあれやこれやをこなす者がいた。気づくとひとことふたこと言葉を交わしており、いつの間にかなぜこの道歩いているのか、どんなものが好きでどんなことが嫌いなのか、これからどうするのかなど深く語り合う仲になっていた。私はそのものを「友」と呼んでいた。私が深い谷に迷い込み、恥ずかしい話泣きそうになっていたとき、そっと声をかけてくれたのは友だった。また高い山に登ろうとし、くじけそうな時、ともに頑張ろうと励ましてくれたのも友だった。私が友のためにしたことを私は思い出すことができない。しかし、友が私のためにしてくれたことは多すぎて思い出すことができない。こんな私なのに、いつも気づいたらそばにいてくれた。なんともありがたい存在であった。

など感傷に浸るのは、もうすぐこの道の終わりが見えてきたからだろうか。先生は何も言わないが、なんとなく雰囲気分かるのである。もうすぐこの道が終わり、友とも、先生ともお別れなのだ。

この道に入ったばかりの頃は、道のりの長さうんざりし、間延びし、飽き、たまに気に入ることがあれば夢中になり、周りを見ず、投げやりになることもあれば心底尊敬する事もあり、そして最近は何だかあせることが多く、今、はたと無心になった。あと数日歩めばこの道は終わってしまうのであろう。その先に何があるのか、私はまだ分からない。また憧れを見つけるかもしれないし、もう少しのんびりするのかもしれない。それでもこの道を歩んできたことは、きっと私にとって必要なことだったのだと思う。何を得たとか、何をしたらとか、ひとつひとつ数えるような野暮なことはすまい。ただそれらのすべてが今の私であるだけである。だから私はその時がきたら、誰にも恥じることのない姿をもって、道の終わりを歩みたいと思うのである。

担任より

～担任より～



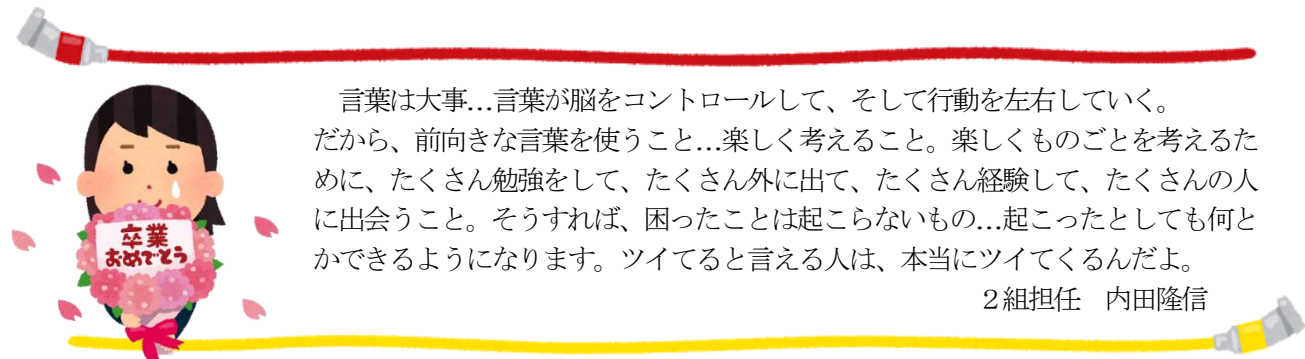
「私だけかね・・・？ まだ勝てると思っているのは・・・ あきらめる？ あきらめたらそこで試合終了ですよ・・・？」

By 安西先生（湘北高校バスケットボール部監督）

残り時間 11 分 41 秒（当時は 20 分ハーフ）、22 点差で負けている状況での安西先生のお言葉です。

何事も最後まであきらめず頑張らなくちゃだね！

1 組担任 皆原邦彦



言葉は大事...言葉が脳をコントロールして、そして行動を左右していく。だから、前向きな言葉を使うこと...楽しく考えること。楽しくものごとを考えるために、たくさん勉強をして、たくさん外に出て、たくさん経験して、たくさんの人に出会うこと。そうすれば、困ったことは起こらないもの...起こったとしても何とかできるようになります。ツイてると言える人は、本当にツイてくるんだよ。

2 組担任 内田隆信

“取り返しのつかないことをしてしまった”とよく言うけれど、過去には戻れないわけだから、そもそも“取り返しがつくこと”はない。でも「幸せ」を手に入れば、取り返しのつかない過去も“あれがあったおかげ”と良い方向に修正することができるのだと私は思っている。

だから失敗を恐れずに、「幸せ」を目指して、今できることに挑戦し続けてほしい。「幸せ」が何なのかなんて分からない。それは手にしてからのお楽しみです。

卒業、おめでとう！

3 組担任 荒井大樹



「若さは武器」である。失敗しても若ければ糧になる。でこぼこの道だって若さがあれば楽しんで越えていける。でもほとんどの人たちは、時間が経って初めてその力の強さを知ることになる。「今日が一番若い」のだ。恐れずに進んでいけ。若駒たちよ。

4 組担任 安藤知美

高校 3 年間、どう感じたでしょうか。良かったと思う人は大部分ではないかと思いますが、自分はやはり合わなかったと感じた人もいるでしょう。学校は、独自の規則（ルール）に従って動かなければなりません。なぜ、登校時間が早いのか、もう少し遅くてもいいのではないかなど、多くの不条理さを持っている。皆さんが世の中に出れば、学校以上に不条理さを感じ、悩むだろう。例えば、会社の上司が自分より仕事ができないのに、上に立っているのがおかしい等多くあるだろう。これらに対して負けずに、自分が人間的に成長できることを心から願います。頑張れ！



5 組担任 佐藤幸栄



～先生方より～

手書きの為省略させていただきます。

卒業
おめでとう!

